



2022年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年5月13日

上場会社名 株式会社リファインバースグループ 上場取引所 東
 コード番号 7375 URL http://www.r-inverse.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 越智 晶
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 青木 卓 TEL 03 (5643) 7890
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年6月期第3四半期の連結業績（2021年7月1日～2022年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第3四半期	2,749	-	173	-	135	-	124	-
2021年6月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 2022年6月期第3四半期 124百万円 (-%) 2021年6月期第3四半期 一百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第3四半期	37.71	37.21
2021年6月期第3四半期	-	-

(注) 当社は2021年7月2日付けにて単独株式移転の方法により設立されたため、前年同四半期実績及び前年同四半期増減率の記載は行っておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第3四半期	3,041	509	16.0
2021年6月期	-	-	-

(参考) 自己資本 2022年6月期第3四半期 487百万円 2021年6月期 一百万円

(注) 当社は2021年7月2日付けにて単独株式移転の方法により設立されたため、前期実績の記載は行っておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期	-	-	-	-	-
2022年6月期	-	0.00	-	-	-
2022年6月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 当社は2021年7月2日付けにて単独株式移転の方法により設立されたため、対前期増減率の記載は行っておりません。

3. 2022年6月期の連結業績予想（2021年7月1日～2022年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,396	-	256	-	228	-	178	-	54.71

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 当社は2021年7月2日付けにて単独株式移転の方法により設立されたため、対前期増減率の記載は行っておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表の関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年6月期3Q	3,312,821株	2021年6月期	ー株
② 期末自己株式数	2022年6月期3Q	ー株	2021年6月期	ー株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年6月期3Q	3,304,328株	2021年6月期3Q	ー株

(注) 当社は2021年7月2日付けにて単独株式移転の方法により設立されたため、前期実績及び前年同四半期実績はありません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

四半期決算補足説明資料は、当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は2021年7月2日付けにて単独株式移転の方法によりリファインバース株式会社の完全親会社として設立されましたが、連結の範囲については、それまでのリファインバース株式会社の連結の範囲と実質的な変更はありません。以下の記述において、前年同四半期と比較を行っている項目についてはリファインバース株式会社の2021年6月期第3四半期連結累計期間（自2020年7月1日至2021年3月31日）との比較を、前連結会計年度との比較を行っている項目についてはリファインバース株式会社の2021年6月期連結会計年度との比較を行っております。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、前期に引き続き既存事業で徹底したコスト削減を進めながら、今後の成長の核となる再生樹脂製造販売事業の事業領域の拡大に向けて、持続的な成長のための事業基盤の強化、推進に努めてまいりました。

再生樹脂製造販売事業は売上・利益ともに大幅に伸長しました。カーペットリサイクル事業は堅調に推移し、高機能樹脂事業は工場の生産性改善に伴いサイクルナイロン樹脂「REAMIDE」（リアミド）の生産高及び売上高が伸長しております。ソリューション事業は北海道での廃棄漁網マテリアルリサイクルの事業化向け等、複数のソリューション案件による売上で収益に貢献しました。

再生樹脂製造販売事業においては先行投資フェーズから利益貢献フェーズへ移行し、外部企業等との連携による取り組みも加速しており、更なる成長のための基盤は拡大しております。また世界的なナイロン素材不足の影響もあり、当社グループのリサイクルナイロン樹脂「REAMIDE」（リアミド）への引き合いは増加しており、生産性改善による生産量の増加と原価低減を継続して進め、生産高及び売上高を更に増加させることで利益貢献事業へと進化しております。さらに、ソリューション事業においては昨今の廃棄物処理費用の高騰により廃材処理バリューチェーン改革を目的とした当社ノウハウへの引き合いが増加しており、ライセンス契約やコンサルティング受託、設備販売、設備設計業務受託などで収益増に貢献していく見込みです。

産業廃棄物処理事業においては、DX化・新サービスの提供など顧客の利便性を高める取組みが奏功し増加する原状回復工事の受注獲得につながり、堅調に推移しております。今後も積極的な営業活動を継続することで安定的な収益基盤の強化に努めてまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,749,808千円（前年同期比42.3%増）、営業利益173,593千円（前年同期は営業損失90,268千円）、経常利益135,746千円（前年同期は経常損失107,624千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益124,607千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失105,527千円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、記載のセグメント別の金額はセグメント間取引の相殺前の数値です。

① 再生樹脂製造販売事業

再生樹脂製造販売事業につきましては、前第4四半期会計期間以降、4四半期連続でセグメント損益は黒字で推移しております。原状回復工事増加に伴う廃カーペットタイル受入処理量は堅調に推移し、廃カーペットタイルをリサイクルした再生塩化ビニルコンパウンド「リファインパウダー」の引き合いが増加しております。廃棄漁網等をリサイクルしたナイロン樹脂「REAMIDE」（リアミド）の引き合いも増加しており、生産性を改善することにより生産量を増加し、売上拡大とともにコスト圧縮を継続することで利益の拡大を図っております。また、ソリューション事業において、北海道での廃棄漁網マテリアルリサイクルの事業化向け等、複数のソリューション案件の売上計上により、大幅な増収増益に貢献しました。

この結果、売上高は1,158,563千円（前年同期比76.3%増）となり、セグメント利益は88,314千円（前年同四半期はセグメント損失170,918千円）となりました。

② 産業廃棄物処理事業

産業廃棄物処理事業につきましては、過去最高水準の受注件数を継続し、堅調に推移しております。解体工事から収集運搬・中間処理まで一括受注できる体制と小回りを利かしたサービスを強みに営業活動を強化に加え、DX化・新サービスの提供など顧客の利便性を高める取組みが奏功し、増加する原状回復工事の受注獲得に大きく貢献しました。新型コロナウイルスの影響は引き続き注視する必要があるものの、徹底したコストコントロールを実施したことにより収益力は向上しており、売上高、営業利益ともに前年同期比で増加しております。

この結果、売上高は1,656,680千円（前年同期比28.9%増）、セグメント利益は349,016千円（前年同期比63.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は1,451,627千円となり、前連結会計年度末（以下「前年度末」という）と比べ226,253千円増加しております。これは主として売上増加に伴い受取手形及び売掛金が119,812千円増加、新規借入金に伴う現金及び預金が132,168千円増加、配当金に伴う未収還付法人税等が10,064千円減少したことによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は1,581,905千円となり、前年度末と比べ85,375千円減少しております。これは、主として有形固定資産が81,000千円減少したことによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における繰延資産は8,448千円となり、前年度末と比べ13,535千円減少しております。これは、開業費の償却によるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は962,676千円となり、前年度末と比べ189,220千円増加しております。これは主として仕入及び諸経費の増加に伴う支払手形及び買掛金28,793千円と未払金129,219千円が増加したことによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は1,569,712千円となり、前年度末と比べ200,948千円減少しております。これは、主として借入金の返済及び新規借入に伴う長期借入金が164,414千円減少したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は509,592千円となり、139,070千円増加しております。これは主として業績好調に伴う利益剰余金が124,607千円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年6月期の通期の連結業績予想につきましては、2021年8月13日の2022年6月期通期業績予想に関するお知らせにて公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。なお、新型コロナウイルスによる影響は2022年6月期が終了するまでは継続するものと見込んで連結業績予想を算定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	667,099
受取手形及び売掛金	524,556
商品及び製品	165,943
仕掛品	4,652
原材料及び貯蔵品	39,315
前払費用	19,804
未収還付法人税等	20,587
その他	11,531
貸倒引当金	△1,862
流動資産合計	1,451,627
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物	955,051
機械装置及び運搬具	1,206,676
工具、器具及び備品	98,767
土地	102,100
リース資産	278,503
建設仮勘定	12,658
減価償却累計額	△1,230,127
有形固定資産合計	1,423,630
無形固定資産	20,118
投資その他の資産	
投資有価証券	20,000
繰延税金資産	45,530
敷金及び保証金	90,292
その他	6,886
貸倒引当金	△24,551
投資その他の資産合計	138,157
固定資産合計	1,581,905
繰延資産	
開業費	8,448
繰延資産合計	8,448
資産合計	3,041,981

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)	
負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	89,133
1年内返済予定の長期借入金	396,602
リース債務	48,219
未払金	291,992
未払費用	60,209
未払法人税等	20,311
未払消費税等	34,394
賞与引当金	10,647
その他	11,166
流動負債合計	962,676
固定負債	
長期借入金	1,280,282
リース債務	83,454
繰延税金負債	35,178
資産除去債務	155,508
その他	15,289
固定負債合計	1,569,712
負債合計	2,532,388
純資産の部	
株主資本	
資本金	152,875
資本剰余金	193,758
利益剰余金	140,795
株主資本合計	487,428
新株予約権	22,163
純資産合計	509,592
負債純資産合計	3,041,981

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)
売上高	2,749,808
売上原価	1,959,294
売上総利益	790,513
販売費及び一般管理費	616,920
営業利益	173,593
営業外収益	
受取利息	2
受取賃貸料	2,377
企業誘致奨励金	7,709
助成金収入	2,842
その他	581
営業外収益合計	13,513
営業外費用	
支払利息	14,486
減価償却費	8,454
開業費償却	13,535
雑損失	12,901
その他	1,982
営業外費用合計	51,360
経常利益	135,746
特別利益	
固定資産売却益	259
リース解約益	951
新株予約権戻入益	352
特別利益合計	1,564
特別損失	
固定資産売却損	2,002
特別損失合計	2,002
税金等調整前四半期純利益	135,308
法人税、住民税及び事業税	12,485
法人税等調整額	△1,784
法人税等合計	10,700
四半期純利益	124,607
親会社株主に帰属する四半期純利益	124,607

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益	124,607
四半期包括利益	124,607
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	124,607
非支配株主に係る四半期包括利益	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当第3四半期連結累計期間（自 2021年7月1日 至 2022年3月31日）

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

新株予約権の行使による新株発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ3,250千円増加し、第3四半期連結会計期間末において、資本金が152,875千円、資本剰余金が193,758千円となっております。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取り扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はなく、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取り扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結累計期間等に係る四半期連結財務諸表等への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント			合計
	再生樹脂製造販売事業	産業廃棄物処理事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,096,656	1,653,151	2,749,808	2,749,808
セグメント間の内部売上高 又は振替高	61,906	3,529	65,436	65,436
計	1,158,563	1,656,680	2,815,244	2,815,244
セグメント利益	88,314	349,016	437,330	437,330

2. 報告セグメント利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 千円)

利益	金額
報告セグメント計	437,330
セグメント間取引消去	△1,892
未実現利益の調整額	3,016
全社費用(注)	△264,861
四半期連結損益計算書の営業利益	173,593

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。